

えんちょう通信

No.119

令和6年2月19日

福島市立清水幼稚園

発行者 佐藤 一男

「わたし しっぽ ほしかったんだ・・・」

先週の2月15日(木)、春のようなぽかぽかの陽だまりの中、年長組の子どもたちがみんな思い思いに遊んでいます。

保育室では、「わたし しっぽ ほしかったんだ・・・。」と言いながら、黒ネコさんと白ネコさんが「しっぽ」を作っています。本物のネコになりたいようです。先生から黒と白のビニールの袋をもらって、くるくる丸めてしっぽを作り始めました。そして、出来上がったしっぽをテープで背中に付けました。「しっぽは、どうですか？」ときくと、「いい感じ」と黒ネコさんは大満足です。

もう嬉しくて仕方がない黒ネコさんは、園庭に飛び出していきます。すると白ネコさんが、「お姉ちゃん」と追いかけていきます。「ニャー ニャー。お姉ちゃん待ってー、お魚あげるからあ」。そうして二人で仲良くブランコに乗っています。

子どもたちは想像力で、何にでもなれます。どこにだって行けるのです。子どもたちは素敵だなと思います。

また砂場では何人かでダムを作っています。樋やパイプをつないでダムに水を流しています。この時季に砂場で水遊びができるなんてびっくりです。

「うわー、水がぐるぐる回って、もどってきちゃった。」「あっ、砂が崩れてきた！」

「山に水をかけたら、固くなるんじゃないかな・・・。」「崩れちゃうから、あんまりかけないでね。」

「わたし 怖くなってきた！このままでは、終わりになっちゃうよ！」世界が終わりそうな勢いです。

そのすぐ隣では、女の子が先生と二人で穏やかにままごとをしています。ボールの中に石鹸とお花を入れて、泡立て器で一生懸命かき混ぜています。泡のジュースを作っているのです。

「ジュースはできましたか？」ときくと、「まだ、かかるな・・・。」と嬉しそうに泡立て器を回し続けています。丁寧にかき混ぜて、おいしいジュースを先生に飲ませてあげたいのでしょう。子どもたちは、どの子もみんな優しくて親切です。

子どもたちの自由な遊びの中には、子どもたちの無限の可能性が潜んでいるようで、見ていて本当にうれしくなります。

幼稚園で自分の好きな遊びに一生懸命取り組んだ経験が、小学校以降の子どもたちの「学びに向かう力」につながっていくと言われています。

年長組の子どもたちも、あと少しで一年生です。

幼稚園で思いっきり遊ぶ喜びを経験した子どもたちは、小学校でも一生懸命勉強して、「学ぶ喜び」を見つけていくのだらうと思います。

